

第24回 胎内写真コンテスト

〈応募作品点数175点、応募者数46名〉

入賞作品紹介

第24回 胎内写真コンテスト作品募集!

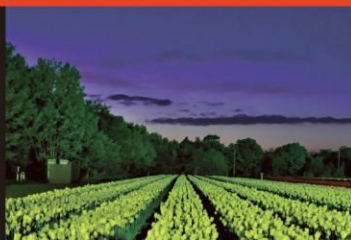


応募締切

2025年(令和7年)

1月31日(金)

胎内市観光協会 必着



募集作品テーマ **あなたの好きな胎内市を撮ろう**
～胎内市の魅力発見～

応募方法

応募先

一般社団法人胎内市観光協会(道の駅「胎内」)への郵送或いは、持込または、tainai.syasin@tainai.infoへのデータ(メール)応募。

- 郵送の場合…一般社団法人 胎内市観光協会
〒959-2806 新潟県胎内市下赤谷 387-1
TEL: 0254-47-2723 FAX: 0254-47-2737
- 持参の場合…胎内市観光協会(事務局)までご持参ください。
- データ応募の場合…10Mを超える画像データ送信の際は、ファイル便をお使いください。

応募形態

作品は、四ツ切サイズの銀塩プリント、または A4 (インクジェット)、メールの際は jpg。

注意事項

- 応募作品は、原則として返却いたしません。
- 応募作品は 2024年1月～2025年1月の間に撮影されたものに限りです。
- 入選作品は、胎内市観光協会が関与する事業の広告媒体、ホームページなどで公開するなど、使用権は胎内市観光協会に帰属させていただきます。

賞

最優秀胎内市観光協会賞1点(賞金3万円)、新潟日報賞1点(賞金1万円)、胎内市観光PR大使賞、Lily&Marry's賞など、入選12点、佳作若干数。各賞状・副賞有。

審査委員長/特別審査員/審査委員

公益社団法人 日本写真家協会 会員：高橋 与兵衛/胎内市観光PR大使：長谷川玲奈、NPO法人 Lily&Marry's：赤妻香織/新潟日報社 新発田総局 記者、胎内市観光協会 会長、胎内市役所 商工観光課、カメラ女子 in たいない 複数名。

応募方法、応募用紙、返却、注意点、審査方法、発表についての詳細はホームページ(胎内観光NAVI)をご確認ください。

胎内観光 NAVI ホームページ▶



主催：  一般社団法人 胎内市観光協会

最優秀 胎内市観光協会賞

撮影日：2024.08.24



「じいじと登ってきたよ」 熊倉 亜矢子

風雪に耐えたブナの巨木の洞を覗く白い洋服を着た少女の姿が木の妖精が現れたようです。樹齢を感じさせる根元が苔に覆われ、そこから覗く少女の飾り気のない仕草が良かった。対角線に切り取られた画面構成が力強く無駄の無い力作です。

新潟日報賞

撮影日：2024.08.04



「小さな七夕まつり」 阿部 久

少子化で子供が少ない中でも、地域に伝わる七夕祭りが受けつかれている。浜の暮らしなのか、七夕飾りは小さな帆掛け舟に飾られている。縦のトリミングなので子供たちに動きがあり、これからも残したい祭りです。

胎内市観光PR大使賞

撮影日：2024.01.14



「外灯桜」 塩原 寛之

夕暮れまで降っていた雪も止み、橋に掛かる街灯の明りと胎内スキー場の明りが射し込んでいる。時間帯が良かったので斜面の凹凸がやわらかく描写されてきれいです。

カメラ女子inたいない賞

撮影日：2024.04.14



「千本桜と天の川」 早川 晃市

桜並みと天の川を写し込むのは難しい。天の川が大きく写されているので望遠レンズで撮影されている。望遠レンズの圧縮効果でダイナミックな作品に仕上がった。胎内川河川敷の千本桜は魅力ある被写体です。

Lily&Marry's 賞

撮影日：2024.07.27



「風抜けるマジックアワー」 薄 聡史

マジックアワー(夕暮れの間)の空と海岸線が美しいです。超広角レンズの特徴で風力タービンや水平線が湾曲し、夕暮れに浮かぶ雲の形が幻想的で素敵な写真です。

優秀賞

撮影日：2024.09.04



「夜景と花火の饗宴」 石月 孝幸

高い位置からの撮影で、中央に高速道路や工場夜景の大きな建物などが写されて、これだけでも素晴らしい。そこに大きな花火を中央でなく、右端に入れたことで迫力のある写真となった。成功のカギを握るのが撮影前のロケーションが大切です。

入 選

撮影日：2024.11.24



「雨上がり」 塩原 寛之

胎内川を跨ぐように見事な虹が目の前に現れてくれた。胎内パークホテルを上手く入れたことで地味な晩秋の風景が一味違う世界に写された。虹の位置が悪ければ自分が移動し構図の良い写真を撮ることができる。

入 選

撮影日：2024.05.10



「豊作祈念」 二瓶 純緒

八条植えの田植え機を真正面から撮影したので迫力があります。GPS（全地球測位システム）が採用されているので、気を使わず真直ぐに植えられる。待機している人たちと軽トラ2台が良いアクセントになっています。

入 選

撮影日：2024.04.18



「勇姿」 井川 康徳

途絶えていた伝統行事のシャングシャング馬が復活し10年たった。タイトル通りに馬と乗り手の気迫が伝わる。撮影場所など難しい条件ですが、シャッタースピードとレンズの調整が上手く、斜面を駆け上がる一瞬が切り取られて迫力がああります。

入 選

撮影日：2024.06.09



「乙宝寺」 レー ゴック カーイ

乙宝寺の三重塔は国の重要文化財に指定されている。赤い傘の女性が印象的です。気になるのが、女性の脇にある看板が目立つので入れないこと。建物の右側と屋根から伸びる相輪が切れないようにトリミングすると重厚な三重塔の表現ができます。

入 選

撮影日：2024.11.15



「秋色リゾート」 相澤 智行

紅葉が全体の9割を占め、その先にロイヤル胎内パークホテルが幻想的に写し込まれて圧巻です。太陽の位置がもっと高い位置にあれば光芒(ダイヤモンドの様な輝き)が現れ紅葉にアクセントが付きます。

入 選

撮影日：2024.06.02

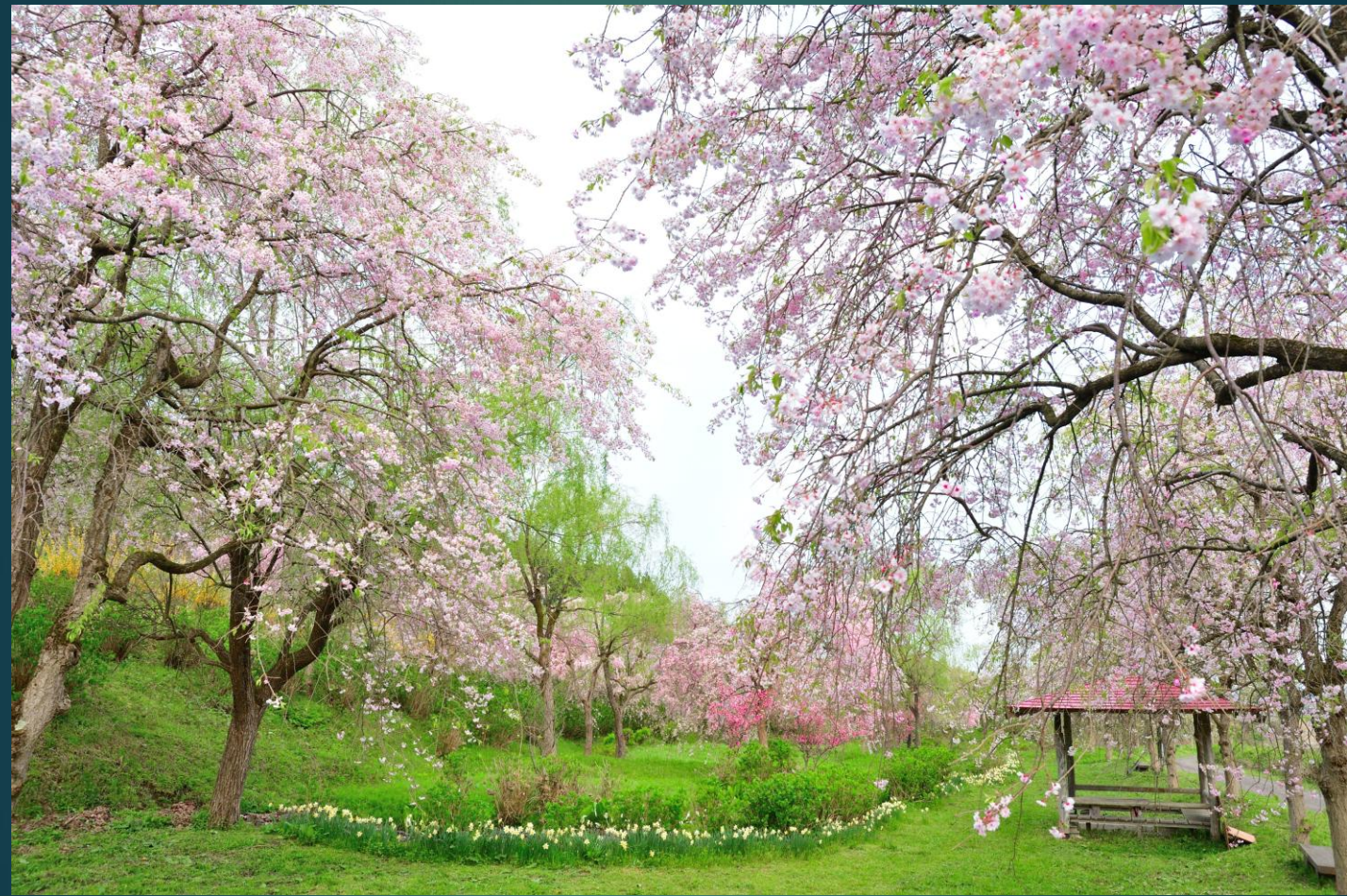


「花香る北飯豊」 荻野 泰奈

初夏の花、ハクサンイチゲが満開で素晴らしい写真です。斜線半分をお花畑が広がり、その先に残雪の山々が続く構図が良かった。高山植物を見たくて登る人が多いと聞いている。

入 選

撮影日：2024.04.21



「桜の楽園」 薄 聡史

全体にやわらかで色がきれいです。新緑と枝垂れ桜と水仙の黄色の取り合わせが瑞々しさを感じさせる。散歩している人や東屋で休んでいる方がいたらもっと人目の引く作品になった。

入 選

撮影日：2024.09.05



「中条祭り」 三浦 孝磨

熊野若宮神社祭礼の一コマで休憩時間か。両側に露天市が並び、その間を華やかに装う山車を大勢の引手のいたことが分かる。明るさが適正なので手前にボケた後ろ姿の方がいたりして、遠近感があり迫力の写真です。

入 選

撮影日：2024.04.13



「桜日和の三八市」 羽田 寿弘

月六回、三と八の付く日に開催される三八市では新鮮な季節の旬が並ぶ。桜日和なのに誰も来なくて、手持ち無沙汰の様子がいじらしくなる。三八市はお寺に係り、満開の桜とお寺を縦に入れたことで魅力ある作品になった。

入 選

撮影日：2024.03.24



「パイプライン」 渡辺 幸吾

町屋の人形さま巡りにあわせて、臨時列車『SL 村上ひな街道』が運行された。曇天で殺風景な背景に工業地帯の一部を入れたことでSLの力強さを感じさせた。

佳作

撮影日：2024.09.04



「中条町並み」 伊藤 與志彦

佳作

撮影日：2024.09.04



「みんなで行ってワイン用ブドウ収穫」 速水 隆

佳作

撮影日：2024.10.17



「上空からのフラワーパーク」 速水 隆

佳作

撮影日：2024.10.09



「緑の神社」 河俣紗耶香

審査を終えて

阿賀町津川在住の山口冬人(やまぐち ふゆと)です。

初めて審査をさせていただきました。

第24回のコンテストのテーマが『あなたの好きな胎内市を撮ろう！

～胎内市の魅力発見～！』でした。

会社務めの頃は新潟市に自宅があったので、村上市に単身赴任をしました。週末・週明けは何時も海岸道路を使い通いました。胎内市は海岸から砂丘地帯、田園地帯、河川公園、高原・山岳と観光に恵まれた地域と感じていた。当時の砂丘地帯はタバコ畑やチューリップなどの畑が広がっていた。また、家族で地本の湧き水に咲く水芭蕉も見に行きました。当時、『胎内星まつり』が開催されたばかりの頃に行き、土星などが見られて子供たちは大はしゃぎでした。フィルム時代のことなので当時の写真を探せないのが悔やまれる。近年は海岸に大きな風力発電機が幾つも設置された。海岸から見る夕日・夕焼けがきれいな所なので家族が遊ぶ風景なども魅力です。満開の千本桜は見たことが無いので、今年は見に行きたいと思っている。桜は花も良いが、逆光に輝く桜紅葉が見事なのでぜひ見たいです。

今回は175枚の応募がありました。審査にはかなりの時間を使い一枚一枚丁寧に見させていただきました。どうしても同じ地域を撮るので仕方ないが、過去の作品に似たものが目に付いた。見る視線を変えるなどしないと上位に入ることが難しくなります。「じいじと登ってきたよ」は過去の作品に無いブナの魅力を感じました。少女の飾り気のない仕草が良かった。「夜景と花火の饗宴」は街全体を入れた花火大会に迫力がありました。良い場所を見つけて撮影されたのが良かったです。他にも触れたいが講評を読んでいたきたいと思います。ありがとうございました。

以上

令和7年3月吉日

(公社)日本写真家協会正会員

第24回胎内写真コンテスト審査委員長 代行

俳人写真家 山口冬人